

五月二十七日、米国のオバマ大統領が広島に立ち寄られました。五月二十六日、二七日のG7伊勢志摩サミットに来日し、その足で被爆地広島を訪れて下さいました。現職の米大統領が被爆地に立つのは初めてのことで、来広が決まっていたから、世界中その話題で持ちきりでした。

当日、平和公園での滞在時間は五分という短い時間でしたが、平和公園内の各施設を回られました。原爆資料館を見学し、原爆慰霊碑の献花、そして所感を述べられ、あつという間に黒塗の特別車に乗り込んで、一路帰国の途につかれました。初めての現職米大統領の訪問と言うことで、過去最高の警備体制や、様々な受入体制を整えるのにどれほどの緊張感だったろうかと思えます。しかし無事何事もなく、帰国されたこと、関係者一同、胸をなで下ろしたことだと思えます。

そのオバマ大統領が来広するまでに、新聞等で色々と論議がありました。また終わっても、そのオバマ大統領の所感や、行動について、色々な意見が出されています。

来広前に大きな話題となったのが七一年前の原爆投下を「謝罪をするか謝罪しないか」でした。日本人は「謝罪を求めるか、求めないか」ということについて、本当にたくさんの方々の意見が新聞紙面に出了ました。色々な立場の方が、それぞれの立ち位置で、そのことに触れておられました。それを私たちはどう考えるのでしょうか。

また、そのオバマ大統領のスピーチにも賛否両論が色々出ました。



**一枚の写真**

石垣の間から出ている排水溝。ふと覗いてみると、中から6つの眼がこちらを見えています。目はあいているものの全く動かないので、その前の草を取ってくちばしをつついてみましたが、それでも全く動きません。少し離れてもう一度見に行くと、三羽とも移動していたので生きていました。危険な時「そうしなさい」と親鳥に教えられたのでしょうか。親が責任をもって育てているんだと思ったこと。数日後親鳥をみました。その時この小鳥たちは大声で大合唱。鳥も生きる力を育てています。人間はどうなのでしょう。親の子育て力は鳥とどっちがあるのでしょうか。支援も大切です。しかし親の力も必要だと思います。しっかり生きてるヒナの顔が見えますでしょうか。(K)

**勇気のあり方**

信楽晃仁

安楽寺寺報

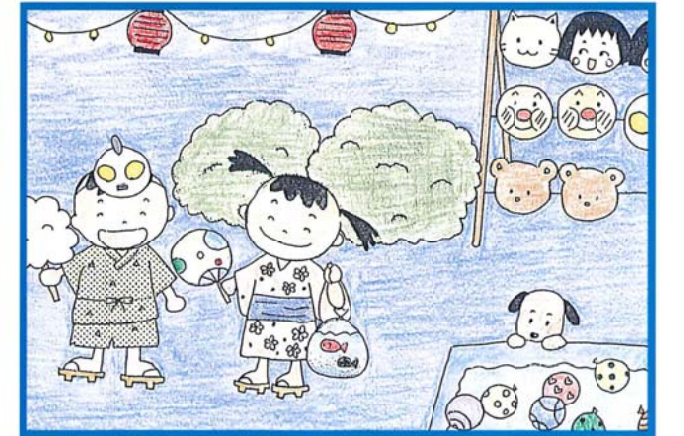
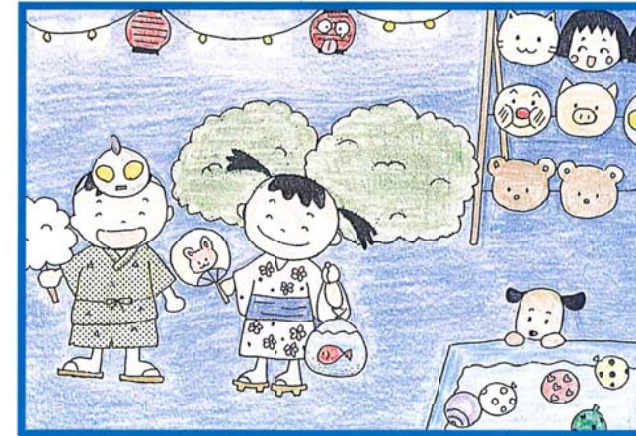
聞光

第79号  
涅槃会号  
2016/5/21

発行所  
〒737-0054  
呉市上山田町2-28  
安楽寺  
0823-21-7561

脳トレ まちがい探し

もうすぐ夏。夏祭りの季節です。下の二枚の絵には7つの違いがあります。良〜く見て探してみてください。脳トレにもなるので、是非チャレンジして下さい。



お知らせ

ひかり幼稚園では、今年安楽寺本堂隣の旧園舎を建て替えることに致しました。昭和43年から48年間の長きにわたり、数千人という多くの子ども達を守り、送り出してきた園舎です。またお寺も法座の度にお世話になりました。しかし近頃多発する地震を見ていると、いつこの呉でも同じことがおこるかも知れません。その時に少しでも地震に耐えられる建物にしておきたいとの思いです。お寺にお参りの方のトイレも整備し、調理室も新しくなります。安楽寺にご参拝の皆様にも少しの間、ご不自由をおかけ致しますが、より良い環境と安全性を確保するため何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



8月のお盆合同仏参は駐車スペースが限られますのでできるだけ乗り合わせてお参り下さい。また夏の集い、聖典講座も今年はお休みさせていただきます。

伝灯奉告法要ご修行

一昨年京都本願寺のご門主(住職)が代わりされ、第25代門主として新たに専如宗主がご門主となりました。それに伴い伝灯奉告法要という大法要が今年10月から来年5月にかけて本願寺でお勤めされます。その募財の依頼(別紙参照)も来ており、御門徒の皆様には出費多端の折、大変ご無理を申しますが、何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。

またそれに伴い、京都本願寺への団体参拝が計画されます。安楽寺は来年4月12日~14日の2泊3日です。ご都合のつかれる皆様には、是非ご予約頂き、一緒にご本山へお参りしたいと思います。



忙しい、忘れた、言え、うか、こべ、心、先、編、す、忙、し、忘、ま、言、う、こ、か、べ、心、先、編、しい、め、下、ご、か、れ、つ、つ、ま、お、と、ら、た、を、た、と、後、(い、私、て、忙、さ、法、送、て、つ、話、の、心、亡、は、日、集、)つ、も、し、る、座、れ、は、い、た、で、危、忙、と、く、忙、い、ご、。忘、れ、か、や、な、な、あ、る、く、し、険、と、亡、す、し、わ、法、。そ、忙、れ、か、や、い、ら、な、げ、ち、の、性、忘、を、こ、い、な、話、う、し、物、ら、ん、ご、の、な、げ、ち、の、を、は、縦、と、い、の、中、。な、い、に、簡、単、で、い、ら、な、げ、ち、の、を、は、縦、と、い、の、中、ん、言、一、気、単、で、事、は、事、を、は、縦、と、い、の、中、と、つ、と、づ、に、す、も、な、を、忘、れ、か、あ、れ、は、う、講、師、の、字、を、の、し、現、わ、て、思、い、こ、と、っ、間、に、忙、し、い、と、い、う、話、の、心、亡、は、日、集、申、も、言、せ、は、忙、の、か、れ、つ、つ、ま、お、と、ら、た、を、た、と、後、訳、実、ず、も、わ、い、と、思、は、な、い、に、忙、し、い、と、い、う、話、の、心、亡、は、日、集、い、や、お、い、ら、気、ま、し、大、切、な、し、と、い、う、話、の、心、亡、は、日、集、こ、っ、こ、ま、大、き、か、せ、と、い、う、話、の、心、亡、は、日、集、で、り、と、よ、い、な、せ、と、い、う、話、の、心、亡、は、日、集、



今回、就職して、新しい生活、職場となり、マンガ通信を始めることになりました。ぜひ、今回のマンガ通信はお休みさせていただきます。

# お念仏のしずく

「仏道とは聞くひと」

浄土真宗の本願の仏道とは、信心の道とも、念仏の道とも明かされませんが、それはまたより根源的には、聞名の道とも語られるところでもあります。ひとすじに阿弥陀仏の名号を聞く、その名告りにこもる大悲の心聞いてゆくことこそ、本願の仏道であります。しかもそのような聞名とは、帰するとすという日々の営みにおいて、私仏の名号を呼びながら、そこにただちに、私に対する仏の名告り、仏の招喚の声を聞いてゆくことにほかなりません。聞名とは、すなわち称名であり、称名とは聞名でなければなりません。そしてまたその聞名が、まことの聞名として、そこにまさしく、仏の名告り、仏の招喚の声を聞くことができるならば、そのことを指して、信心と言わなければならない。その意味において、信心とはすなわち聞名であり、聞名とは信心でなければなりません。本願の仏道が、



信心の道とも、念仏の道ともいわれ、またさらには、聞名の道とも明かされるわけであり。真宗の仏道において、ことに仏名を聞くということが大切にされる理由がここにあります。

真宗における仏壇の荘厳においては、その模様の多くに菊の花が用いられておりますが、それは昔、仏具をつくる人たちが、真宗の仏道とは、ひとえに聞くことが大切であることから、そのことを忘れぬ為、聞くの語を菊の語に重ねて、菊の花の模様にするようになったと伝えております。遠い先人の心の深さが偲ばれることでもあります。仏壇の荘厳に、菊の花の模様を見ることがあったら、この先人の教えを思いおこしたいものであります。

『この道をゆく』



んの言葉で思うことです。それに比べて日本人は強かったのです。戦争をしない、武器を持たないと言った腹の据わった先祖がいたことを、今改めて、誇らしく思うことです。それは命をかける勇気であり、覚悟がなくてはできません。私はそんな日本が好きです。

そしてもう一つ、今回オバマ大統領のスピーチについて「折角広島に来て所感を述べるのに、核兵器廃絶がメインにならず、戦争の否定がメインであった」と残念がる意見がありました。しかし私はそこに疑問を感じます。なぜ核兵器はできたかといえ、戦争があるから核兵器は生まれたのだと思うのです。

効果的、効率的に駆除することです。蚊にしても私をさした蚊だけではなく、蚊全般、一族郎党全てを効率的に殺すために、蚊取り線香や、殺虫剤で、できるだけ多くを殺そうとします。これは言ってみれば大量殺戮兵器です。なぜそうするかと言えば、そこに殺してもいい、殺した方がいい、いな

殺した方が勝ちで、殺された方が負けで、その次はありません。それがあの国は私たちにとって害であるから、殺してもいいという事になれば、人間はその知恵を絞って、より効率的な殺戮方法を考えます。それが刃物が鉄砲になり、鉄砲が大砲になり、大砲がミサイルになり、ミサイルが核兵器になり、悪魔の知恵は、効率よく殺す道具を作り出してきました。その根底に流れているのは、殺してもいいのちがあると言う、私たちが人間至上主義であり、偏狭な国家主義でもあります。

追求の努力をした末にできたもの、それが核兵器だったわけです。だから未だに「原爆投下は正しかった」と言う人はたくさんいます。仏教は決して戦争をしてはならないといえます。なぜなら仏教は「不殺生」の教えです。現代社会はのちが見えなくなり「殺す」という事の恐ろしさが見えなくなっています。仏教は、もののいのちを取ることは、恐ろしい罪であり、あなたが地獄へ行くことだ。とずっと殺すことと罪と悪を説き続けてきました。それを今誰が本気で聞いているのでしょうか。我がいのちの行き先を、誰が本気で恐れているのでしょうか。今も未来も見えていないのです。

安楽寺法要案内	
七月	<p><b>安居会法要</b></p> <p>日時 7月10日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~</p> <p>講師 大阪 極楽寺住職 龍谷・相愛大学非常勤講師 寺本知正師</p> <p>講題 お釈迦様と八正道の話し</p>
八月	<p><b>お盆会同仏参</b></p> <p>日時 8月13日(土)・14日(日) 両日 10:00~11:00</p> <p>講師 安楽寺住職 信楽晃仁</p> <p>講題 先祖を訪ねる</p>
九月	<p><b>前任職三回忌・彼岸会</b></p> <p>日時 9月24日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~</p> <p>講師 音戸 法専寺衆徒 元平安高校教諭 毛利 悠 師</p> <p>講題 念仏の興隆を願って ~信楽峻磨先生の教学と行動~</p>



## 暮らしの中の仏教語 『あきらめ』

どうにもならないことをよくよく考えないで断念することを、「あきらめる」といいます。

お釈迦さまは、悟りを開かれたあと、ベナレスのミガダヤで五人の友人たちに、初めて法を説かれました。初転法輪と呼ばれているのがそれで、その説法の内容が「四諦」の教えでした。諦とは「まこと」とか「真理」という意味で、動詞として読む時には「あきら

らめる」すなわち「明らかに真実を見る」という意味なのです。

お釈迦さまはその悟りの内容を、苦諦・集諦・滅諦・道諦の四つの真理に分けて教え、それを見ることによって、真理を知ることができると説かれました。だから諦という語は、現在のうちに消極的な用い方ではなく、真理を悟るといふ力強い語なのです。

信心とはその教えのことです。信心こそが、この世とこの私を明らかに見ることのできる智慧の姿なのです。